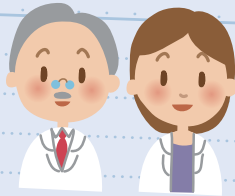


関係者からのメッセージ



小児神経科医から

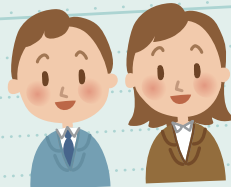


子育てに不安を感じたり、お子さんの発達や行動が気になっている方々へ。

いわゆる気になる子どもたちのすべてが病気や障害ではありません。発達に障害がある場合、特性をふまえた前向きな援助が大切です。気軽に専門機関にご相談ください。ともに、子どもたちの成長を見守り、応援しましょう。

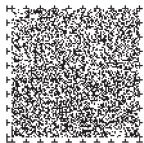


臨床心理士から

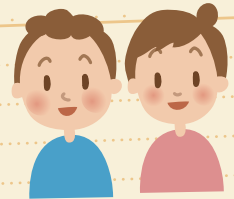


ちょっと気になる子が、たくさんいます。自分から助けのサインを出せないまま、一生懸命やっているのに、人知れずつらい思いをしていることもあります。また、ちょっと気になる子の行動のために、困ってしまったり、どう対応してよいか相談できずに悩んでしまう親御さんもいます。

育て方やしつけだけの問題でない子、ふざけたり悪さのために場を乱したり、動いてしまう訳ではない子がいるという事実を多くの方が認識できると良いと思います。孤独になって悩んでいる親御さんは、気になる子を対象にしている窓口気軽に相談してみるのも良いと思います。



学校から

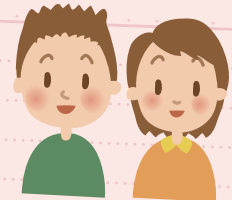


小学校や中学校は、決められた学習内容を日課表に沿って、集団で学んでいく場です。もしかすると、お子さんの中には集団の中で活動することや日課表に沿って学んでいくことが苦手な人がいるかもしれません。

そんなときには、担任の先生や特別支援教育コーディネーターの先生、教頭先生や校長先生にまず相談してみてください。これまで関わってきた主治医の先生や専門家の方々よりよい学校生活の送り方を相談していくことができます。一人で悩まないで、多くの人と連携を図り協力し合ってお子さんが毎日楽しく学校生活を過ごせるようにしていきましょう。



保護者から



診断は、子どもに障害のレッテルを貼ることではありません。早期の療育は、子どもの可能性を広げます。肩の力を抜いて、地域のサービスを上手に活用してみませんか？ 親にだって、気持ちの余裕は必要です。そして、気持ちに余裕ができたなら、子どものよいところをいっぱい褒めてあげましょう。叱られることが多い子どもだからこそ、褒めることが大切なのです。子どもの“生きる力”を育むために、地域で温かく見守っていきましょう。

